

コロナ 看護職9割高い緊張感

東北大調査「行動制限」ストレス

新型コロナウイルスの影響で、県内の看護職の約9割が、高い緊張感にさらされながら勤務していることが、東北大の研究グループの調査でわかった。

調査は昨年12月、県内全病院138施設の看護職を対象にオンラインで行い、1321人から回答を得た。

「職場の緊張感が高まっているか」の質問に、「非常に高まっている」との回答が47・6%、「少し高まっている」が42・6%で、90・2%が高い緊張状態にあると考えていた。昨年5月の前回調査時から7・7

ポイント下がったものの、依然として緊張状態が続いていることが浮き彫りとなった。また、「気分が沈んだり、

憂鬱な気持ちになったりしたことがある」との回答も前回とほぼ同じ74・3%に上った。

自由記載では、「医療者のため、行動制限をしなければならぬ」との記載が目立ち、ストレスをためこんでいる可能性も示された。調査した同大の朝倉京子

教授(看護管理学)は「看護職が十分に休養できる対策や心の健康への支援が必要だ」と指摘している。